

第4回廿日市市大野支所及び周辺市有地有効活用検討委員会 議事録（概要）

- 日 時：平成23年4月27日（水）14：00～15：30
- 場 所：大野図書館2階大研修室
- 出席委員：16名
- 傍聴者：10名

次第1 委員の交代について

次第2 視察報告について

次第3 提案書について

次第4 今後のスケジュールについて

1 委員の交代について

委員の交代の報告と新たに就任した委員（3名）の自己紹介

2 視察報告について

【資料説明】

道の駅「たけはら」、呉市安浦市民センターの視察概要と参加者の感想等の説明

【主な意見】

<道の駅「たけはら」に関連して>

- ・幹線道路の傍にあり、結構にぎわいの場になっていた。にぎわい創出にはいいのではないか。
- ・県内にもたくさん道の駅があるが、どのような地域活性化を生むのか、国道沿いの施設の評判も見ていかなければならない。
- ・国道2号沿いにはまだ1箇所もないということであれば、西の拠点として、観光拠点となりうる可能性もあるのではないか。
- ・新しいアイデアを入れたような本当に特徴のあるものでないと、なかなか繁栄はしないのではないか。
- ・問題はやはり採算。継続的に採算がとれるかどうかという点が心配。
- ・竹原は観光地としての有利さがある。採算性、継続性がどうしても問題になるので、利用者数の見通しがポイントではないか。
- ・現在地ににぎわいの創出の道の駅を作るにしても、市単独では出来ないのではないか。
- ・道の駅となるとかなりの規模でないとなかなか難しいのではないか。

<呉市安浦市民センターに関連して>

- ・行政サービスを中心とした機能で、図書館等の他のサービスとの関連もうまくいって、行政サービスを中心に考えると参考になる。
- ・行政施設が一箇所に固まっており、非常に使い勝手がよいという印象。
- ・駐車スペースが減少したため離れた場所に駐車場が確保されているが、実際の利用には不便さがあるのではないか。
- ・規模が小さく、スペースが狭い。大野支所の場合は少し広くてもいいのではないか。

- ・住民の活動の場を確保してある割には狭すぎる。

＜位置について＞

- ・筏津の既にある機能と合体する場合、かなり大きいスケールで支所機能が集約できるのではないかと。一方、将来的に一般者も迎え入れる形を整えたとしたら、現在地が望ましい。
- ・現在地は交通結節がしっかりしているが、筏津は十分でない。それを改善していくという目論見を持った上で筏津にすれば、相当機能的な支所になるのではないかと。
- ・筏津は拠点になっているが、公民館も福祉センターも老朽化している。
- ・災害時などを想定してどこが一番いい場所かを考える必要がある。
- ・現在地はタクシーで来て用事をするのに銀行や病院があるので便利だが、筏津へ行くには交通費もかかり、お年寄りが出掛けにくくなる。

＜機能について＞

- ・行政側としてどのくらいのものが必要なのかが原点。まずは行政の規模に見合う機能、加えてにぎわいづくり、さらに将来の若い人たちのためにどういう施設だったらよいか、という3つの観点が融合するようなものが必要。
- ・大野支所には多機能トイレが完備されていることを考慮に入れて考える必要がある。
- ・支所の中に子ども会が使える部屋や交流できるようなスペースが、ぜひ欲しい。
- ・商工会が検討している案には、各種団体が活用できる、子どもたちも安心して遊んだり行事をしたりできるものを採り入れている。

＜にぎわい創出について＞

- ・活性化には、生きた魚をお客さんに網で掬って買ってもらい、古木や廃材を利用した製品を売る、アイデア教室などもよいのではないかと。
- ・地域の皆さんが寄って楽しんで、買い物をして帰る、お茶を飲んで帰る、そして支所としても利用する、というようなものができないかと。
- ・廿日市市は産地、特産がないところだが、地域の活性化として真剣にやってみようという若い方も含めて、野菜や特産の売場が一箇所ではなくあちこちに出来るのが理想。

＜検討における留意点について＞

- ・次の世代を担う若い人たちの考えをどうやって採り入れていくか、ということが重要。
- ・視察を踏まえて、大野地域に合ったものをいかに作るかが大事ではないかと。
- ・施設を作ることも大事だが、作ったものを育ててあげて、発展させていくこと、人の力が大事。その点、竹原も安浦も官民一体でよくやっている。

3 提案書について

- ・6月10日（金）までに提出を依頼

4 今後のスケジュールについて

- ・6月下旬に第5回の委員会を開催
- ・次回は提案書に基づく提案、意見交換を行う